

ダイズ莢及び子実の被害調査結果

病害虫による莢及び子実被害は平年より多く、莢ではマメシクイガやフタスジヒメハムシ、子実では吸実性カメムシやマメシクイガによる被害が目立った（図1、2）。

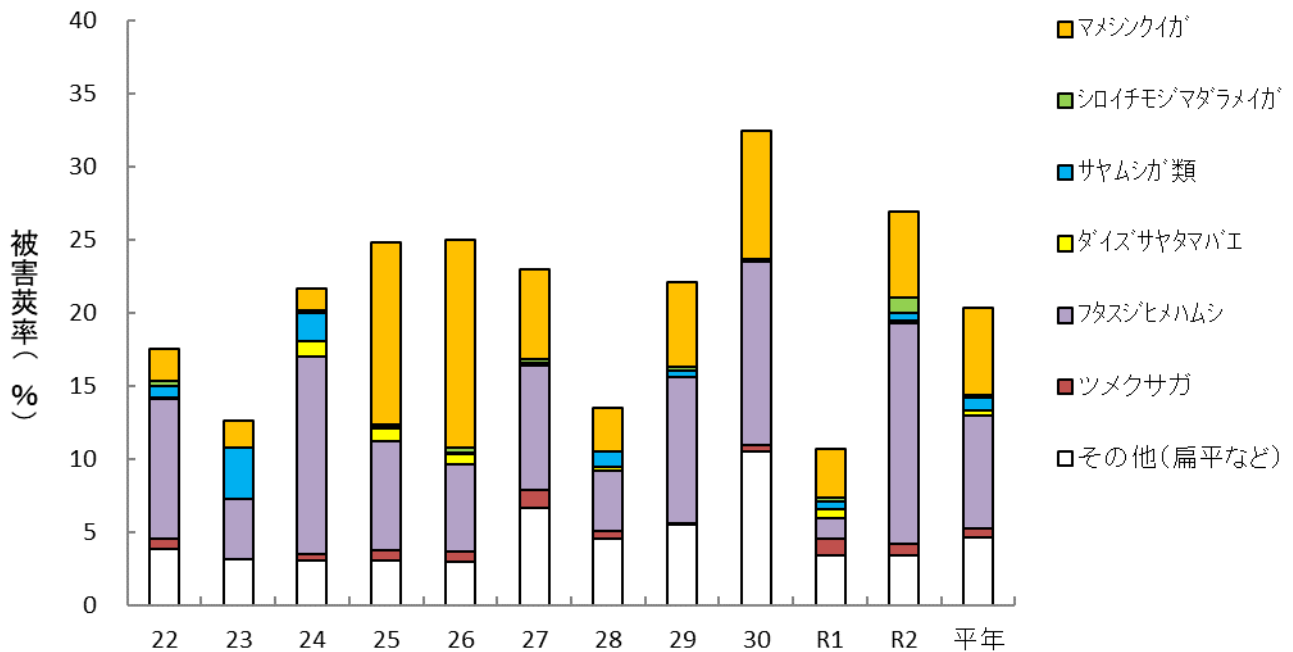


図1 原因別被害率の年次的推移

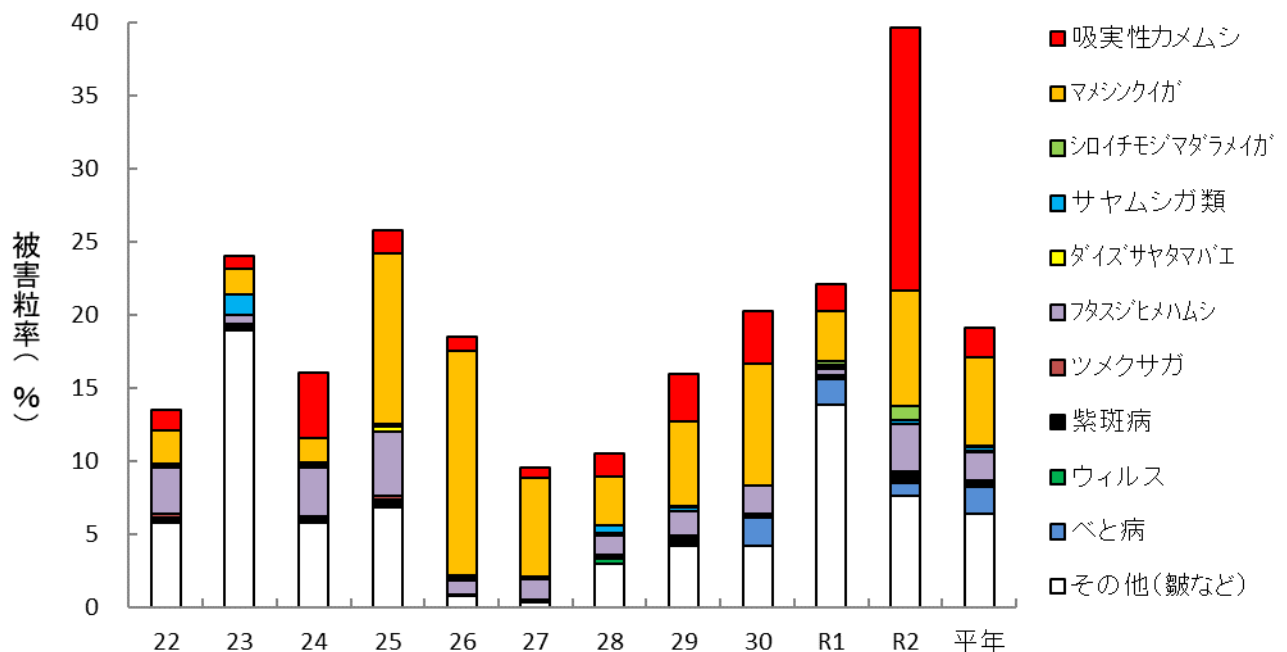


図2 原因別被害率の年次的推移

1 吸実性カメムシ類

被害粒率は平年より高かった（図3）。中通りの一部地点で特に被害粒が多かったが、他の地点でも平年並～多い発生であった。

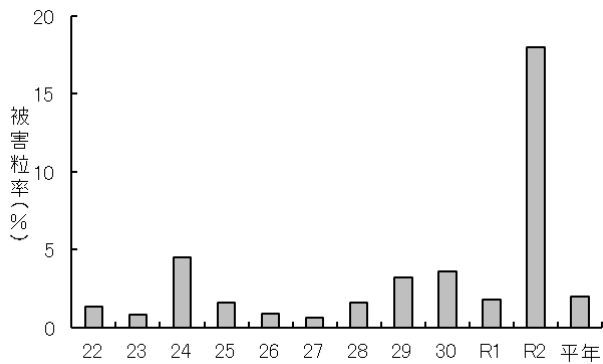


図3 吸実性カメムシ類による被害粒率の年次的推移

2 マメシクイガ

被害莢率及び被害粒率は平年並だった（図4、5）。

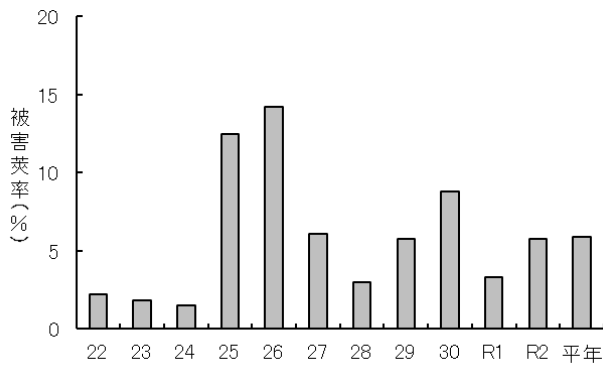


図4 マメシクイガによる被害莢率の年次的推移

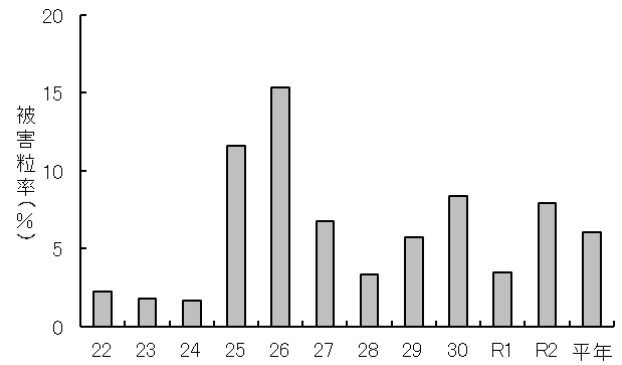


図5 マメシクイガによる被害粒率の年次的推移

3 シロイチモジマダラメイガ

被害莢率及び被害粒率は平年よりやや高かった（図6、7）。

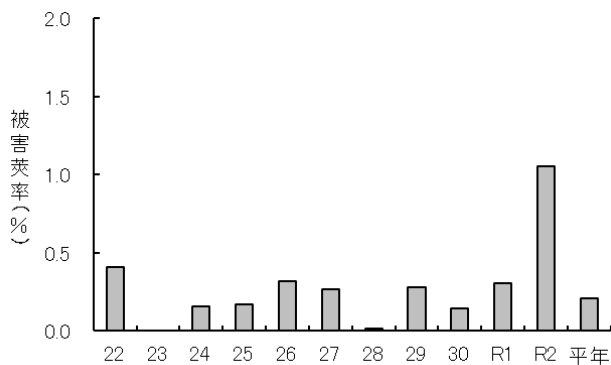


図6 シロイチモジマダラメイガによる被害莢率の年次的推移

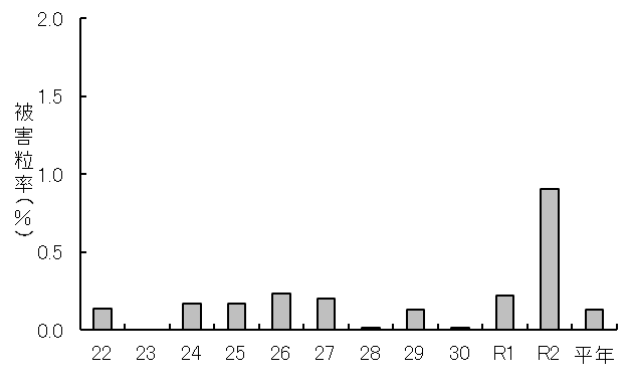


図7 シロイチモジマダラメイガによる被害粒率の年次的推移

4 サヤムシガ類

被害莢率及び被害粒率は概ね平年並だった（図8、9）。

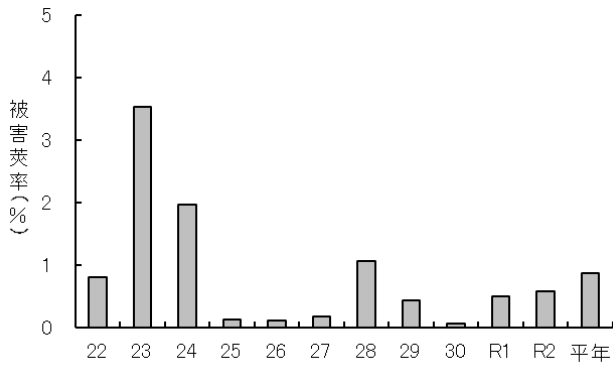


図8 サヤムシガ類による被害莢率の年次的推移

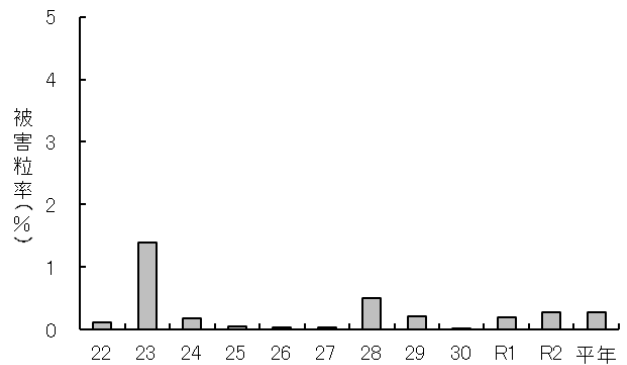


図9 サヤムシガ類による被害粒率の年次的推移

5 ダイズサヤタマバエ

被害莢率は概ね平年並だった（図10）。

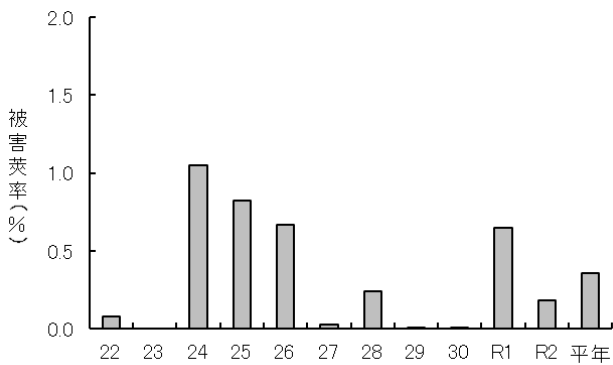


図10 ダイズサヤタマバエによる被害莢率の年次的推移

6 フタスジヒメハムシ

被害莢率及び被害粒率は平年よりやや高かった（図11、12）。本年は浜通りでの発生が目立った。

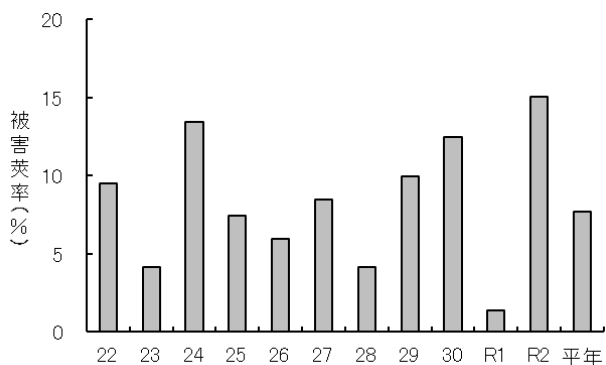


図11 フタスジヒメハムシによる被害莢率の年次的推移

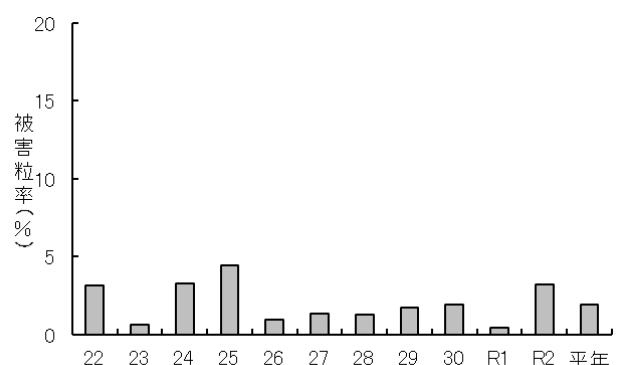


図12 フタスジヒメハムシによる被害粒率の年次的推移

7 ツメクサガ

被害莢率及び被害粒率は平年並だった（図 13、14）。

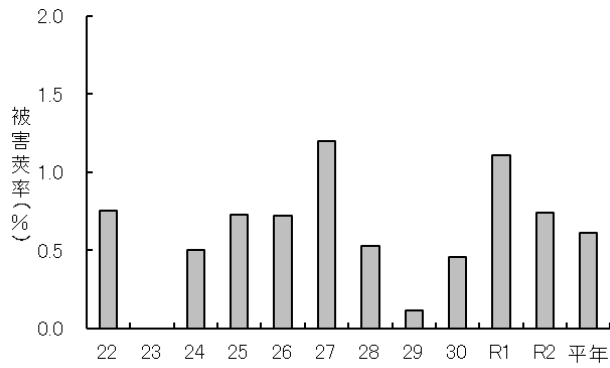


図 13 ツメクサガによる被害莢率の年次的推移

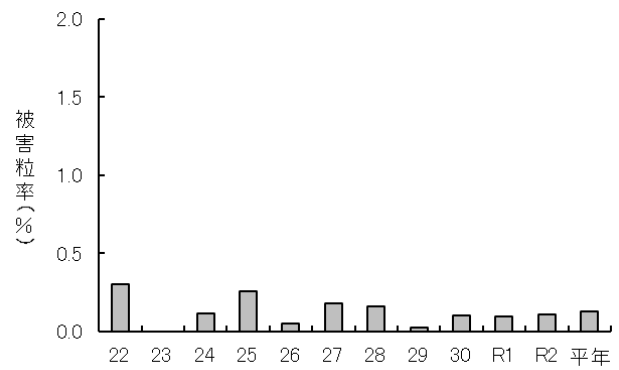


図 14 ツメクサガによる被害粒率の年次的推移

8 紫斑病

紫斑粒率は平年よりやや高かった（図 15）。

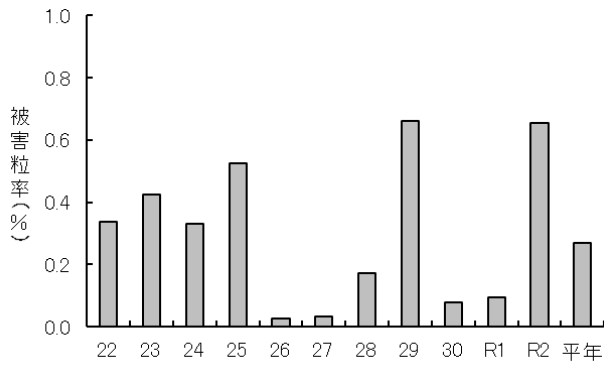


図 15 紫斑粒率の年次的推移

9 ウイルス病

本年度ウイルスによる褐斑粒は見られなかった（図 16）。

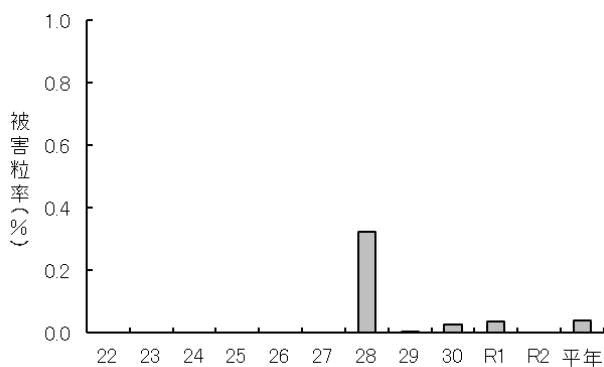


図 16 褐斑粒率の年次的推移

10 ベと病

被害粒率は過去3年の中で最も低かった（図 17）。なお、本病による子実被害は「里のほほえみ」でのみ確認された。

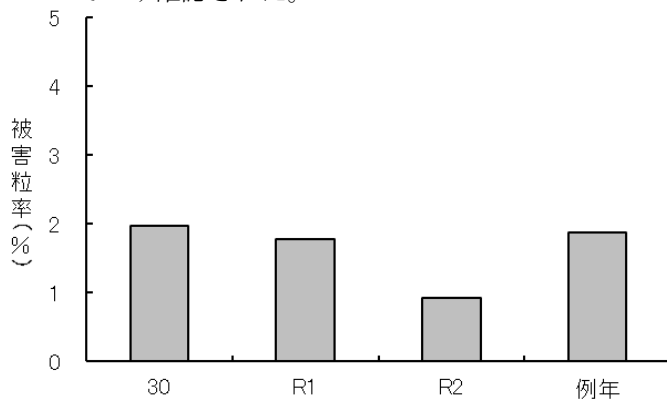


図 17 ベと病による被害粒率の年次的推移

※本病による子実被害の調査は H30 年度から開始した。